

令和5年度 学校関係者評価委員会のまとめ

1 参加者

No.	役職	氏名	No.	役職	氏名
1	学校運営協議会委員	大西 誠治	9	学校運営協議会委員	篠原 裕和
2	学校運営協議会委員	高橋英理子	10	学校運営協議会委員	淀川由美子
3	学校運営協議会委員	石黒 忠則	11	P T A会長	進藤 誠
4	学校運営協議会委員	宇高 英治	12	川之江高等学校長	松木 義明
5	学校運営協議会委員	大西 賢治	13	川之江小学校長	渡邊 真介
6	学校運営協議会委員	高橋 優子	14	金生第二小学校長	大西 厚
7	学校運営協議会委員	高橋 一生	15	金生第一小学校長	中廣 七枝
8	学校運営協議会委員	星川 達郎			

2 学校関係者の評価

【四国中央市内小・中学校 共通項目】		関係者 評価	評価結果(%)				肯定 評価
A : 100~86% B : 85~71% C : 70~56% D : 55~0%達成			4	3	2	1	
1	学校の教育目標の達成に向けて具体的な目標を設定し、校長を中心に組織的に学校運営や教育活動を行っている。	A	62	31	8	0	92
2	自己評価結果を分析して具体的な改善方策を実施し、課題が改善されている。	A	46	46	0	8	92
3	教育活動や評価結果に関して分かりやすく情報提供できている。	B	54	31	15	0	85
4	保護者、地域住民は、学校運営に積極的に参加・協力している。	B	46	31	23	0	77
5	学校関係者評価委員会は、適切に運営されている。	A	46	54	0	0	100
【学校独自の評価項目】							
6	安全教育や防災教育は適切に行われている。	B	15	69	8	8	85
7	学校の施設・設備は整備されている。	D	15	38	46	0	54
8	学校は、いじめの早期発見・再発防止に積極的に取り組んでいる。	C	38	31	31	0	69

3 学校運営協議会で出された意見等

- ・ 毎朝川之江小学校と中学校の正門前で登校指導をしているが、多くの生徒が挨拶をしてくれてとても気持ちがいい。ただ、目上の人に対する礼儀がもう一つと感じている。遅刻ギリギリに来る生徒は決まっていることも気にかかる。何とかできないものだろうか。
- ・ 「ふれ愛地域体験講座」では、川之江高校の生徒も部活動単位で講座を担当したが、高校生にもいい経験になった。また、生徒が地域と関わることはとても良いと感じた。書道パフォーマンスを体験した生徒が、川之江高校に進学したいと言っている。高校にとっても、地域にとってもプラスが多い。講座が希望通りにならず、消極的な生徒もいたが、おおむね生徒は楽しそうだった。
- ・ 「北中ナイト」に向けて、子どもたち主体で問題を解決しながら開催までこぎ着けた。高校生がボランティアで参加してくれたが、強制されたものでなく、主体的に行動する生徒が多かった。小学生も来ていたので、小学生は中学生を、中学生は高校生を見て、憧れを持つ活動になっていた。
- ・ 「笑顔作り隊」のボランティア活動は、中学生のころから地域の役に立ちたいという思いから始まっている。素晴らしいと思った。
- ・ 学校に行きたいけれど行けないという子供もいる。地域として何かできることはないのだろうか。好きなことだけやって生きていけるわけではないが、上手に地域で支えていけないだろうか。
- ・ 不登校や問題行動は、中学校になっていきなり始まるわけではないはず。「くぎが曲がる前に関わる」の発想で、幼児期や小学生の時期に打てる手立てを打つべきである。

4 意見や具体的改善策等の提言

(1) 学習について

- ・ 家庭学習が不十分である。肯定的な評価が生徒→保護者→教員の順に低下しており、それぞれの差も大きい。
- ・ 準備物や宿題の忘れに対する意識が生徒・保護者と、教員間の差が大きい。特に生徒は肯定的評価が8割を超えており、忘れ物に対する問題意識が薄いことがうかがえる。
- ・ 家庭でのTV、ゲームパソコン、携帯電話等の使用時間が長く、家庭学習の評価の低さにつながっている。ゲーム機のペアレンタルコントロールや、携帯電話のフィルタリングアプリなど、保護者が子どもの携帯電話などの使用を制限できるサービスの周知が必要である。
- ・ 「生徒主体の分かりやすい授業を行っている」の項目に対する評価は、生徒・教員ともに高く、授業での工夫や取組は理解されている。しかし、本校生徒の平均学力は全国平均から見ても高くはなく、教員の授業改善が学力向上にあまり結び付いていない。
- ・ 朝読書の時間の確保を基盤として、読書に対する関心の向上を行ってきたが、読書の習慣化は評価が低い。生徒同士で読んで面白かった本を伝えあう活動や、「みきゃん通帳」の活用など、色々な仕掛けを講じていくとよいのではないかと考える。

(2) 生活について

- ・ 「生徒は学校や社会の決まりを守っている」「生徒は当番・清掃がよくできている」「生徒は、いつでも気持ちのよい挨拶ができている」の項目は、教員だけ評価が低く、生徒・保護者との意識の差がうかがえる。望ましい生活習慣の形成や規範意識の向上について、教員集団の足並みをそろえた継続的な声掛けが必要であると考えられる。
- ・ 「教師は、生徒一人一人を大切に、個々の特性に応じた指導に努めている」「学校は、いじめがなく、楽しい場所になっている」の項目は教員だけ評価が高い。学校で不安を感じたり、困りごとを抱えたりしている生徒や保護者が一定数いるということ、教員は自覚しなくてはならない。生徒たちが安心して積極的に学べる学校にするため、まず教師との信頼関係を築くという原点回帰することも必要である。
- ・ 生徒の学校行事に対する満足感が高い。体育祭や文化祭などでの年間を通じた異学年との交流や協力した活動に力を注いだ結果であろう。また、道徳科の取組である「ありがとうカード」や学校行事での他学年に対する「メッセージカード」など、温かい思いを伝えあう活動が、高い評価の基盤にあると考えられる。
- ・ 生徒の防災に関する意識は高いという結果が出ているが、令和6年2月末に緊急地震速報が鳴った時、学校は清掃の時間であった。教員も指示に戸惑い、何もできない生徒もいたことから、もっと意識を高く持たなければならない。防災への取組については、中学校区で連携して今後充実させていく必要があると思う。災害が起きた時、それぞれがバラバラな対応にならないよう、事前の協議が必要である。また、地域とともに防災意識を高める活動を行ってはどうか。

(3) P T A活動、学校運営協議会、地域との連携について

- ・ 今年度はコロナ禍が明け、学校・家庭・地域が連携して体育祭や文化祭、「ふれ愛地域体験講座」を従来通り実施できた。また、創立60周年記念として文化祭のステージ発表や、北中ナイトの開催に尽力いただき、地域とともにある学校づくりを推進することができた。
- ・ 学校運営協議会の方々に毎朝の挨拶運動や、定期的な補導活動など様々な支援をいただいていることで、生徒の清掃への取組や、気持ちの良い挨拶をすることへの意識の高まりが見られるなど、具体的な成果が見られた。
- ・ 「北中ナイト」は、生徒からのアイデアを、学校運営協議会とP T Aとが上手に協力し合うことで具現化できた。
- ・ 今年度も、ふれ愛地域体験講座のおかげで地域や地域の人から学ぶ機会ができた。川之江高校の部活動や新居浜高専、香川高専の先生を講師として招いたことで、3年生にとっては卒業後の進路を考える良いきっかけになった。

5 次年度の取組

(1) 学習について

- 家庭学習の充実に向けて、家庭における1人1台端末の有効な活用を図る。
- 定期テスト期間中に行っている家庭学習時間調査を継続し、学習意欲の向上を図る。
- 基礎的、基本的な学習内容の定着のため、生徒一人一人の進度に合わせたドリル学習の充実や、定期的な小テスト、振り返りテストの実施に取り組む。
- 各教科の授業において、生徒自らが考え、協働する学習を通して、自らの考えを広げ深める学習を充実させるために、ペア学習や小集団学習等の学習形態を工夫し、アウトプットする機会を増やす。
- 「あゆみ」の記入確認や、家庭との連携を深めることで、宿題や準備物の忘れ物を少なくする。

(2) 生活について

- 規範意識や生活態度の向上のため、学級における委員会活動（生徒会活動）や係活動を充実させる。また生徒指導に関する教職員の意識の統一を図り、足並みをそろえた指導を心掛ける。
- 温かい人間関係作りのため、「ありがとうカード」や学校行事を通じた異学年交流を継続する。
- いじめの早期発見のため、定期的なアンケートや相談活動の実施を継続する。
- 防災意識の向上のため、2学期以降の避難訓練を予告なしで行う。

(3) P T A活動について

- P T A活動の活性化のため、学校行事における学校運営協議会との連携の機会を増やす。
- 生徒数の減少により、P T A役員の決定方法や地区評議員の人数に課題があるため、役員の人数や決定方法、地区の数についても見直しを図る。